

#### (4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 宮崎大学教職大学院・宮崎県教育委員会事務局教職員課・宮崎県教育情報センタ ー 事業名：アフターコロナを見据えた職場環境の構築 ～ジェネレーション・ギャップの把握によるハラスメント防止～ 研修等名：【NITS・宮崎大学教職大学院等宮崎大学教職大学院コラボ研修】 アフターコロナを見据えた職場環境の構築 ～世代間ギャップの把握によるハラスメント防止～ 開催日時：令和5年2月7日13時～16時 開催場所：宮崎大学教育学部（宮崎県宮崎市学園木花台西1-1）の対面会場とZOOM会議 参加人数（総数）と参加者の属性：（48人）院生21人、教育学部生15人、教育委員会2人、宮崎県 教育研修センター2名、大学教員8人
--------------------------------------	--

**内容：**「はじめの挨拶」として宮崎大学教職大学院専門職学位課程統括長の戸ヶ崎泰子教授から連携事業の意義が述べられた後、宮崎大学教職大学院准教授の湯田拓史から、研修の目的と調査項目である「世代間ギャップ」の説明と「世代間ギャップ」の意識調査結果とコンプライアンスの講義を行った。さらに、宮崎県の行政研修における「ハラスメント防止」について谷口英彦研究員が講義をすることで宮崎の事情に即した対応を説明した。とくに、宮崎県の初期研修では、初任者に指導教諭が1対1で対応するのではなく、勤務校で複数人のチームを組むことで「世代間ギャップ」による関係の悪化を避け、ハラスメントを防止していることが述べられた。

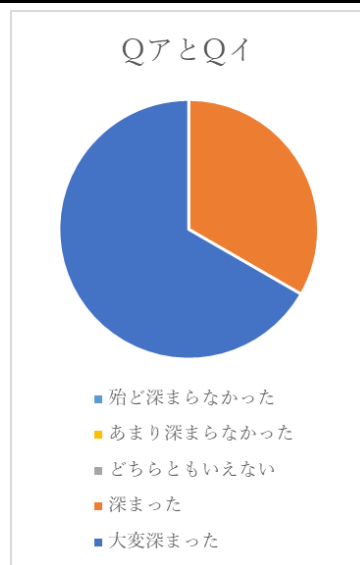
パネルディスカッションでは、宮崎大学教職大学院客員教授である黒木健一がファシリテーターとして、谷口推進員と宮崎県教育研修センター学習研修課の課題別研修担当副主幹である明松美佳、宮崎大学教職大学院の現職教員院生代表と「Z世代」に当たるストレート院生代表が、職場での「世代間ギャップを意識したハラスメント防止の取り組み」について、お互いの見解の違いを述べることで、内容の幅を広げた。

グループディスカッションでは、教職大学院生を中心にパネラーと共に7人1班として3班として、教職大学院生を中心にパネラーと共に勤務校で実施しうる「世代間ギャップ」を踏まえたハラスメント防止についての校内研修の企画検討を実施した。

**成果：**ニツコラボ終了後に実施したアンケート結果は次の通りである。

ストレート院生 + 現職院生の計 21 名中、「Q ア 教職大学院の教員の講義 (実態調査等) を聞いて、「世代間ギャップの把握によるハラスメント防止」についての理解」も「Q イ 県教育委員会の講話 (行政説明) を聞いて、「世代間ギャップの把握によるハラスメント防止」についての理解」も、「大変深まった」が 14 名 (66. 6%) であり「深まった」が 7 名 (33. 3%) であった。

さらに、Q E 本日の「グループディスカッション」に参加して「世代間ギャップの把握によるハラスメント防止」についての理解は、「大変深まった」が 11 名 (52. 4%)、「深まった」が 9 名 (42. 9%)、「どちらともいえない」が 1 名 (4. 8%) であった。今回の研修によって、世代間ギャップ把握によるハラスメント防止についての理解を深めることが出来た。



**アイデアや工夫したこと：** ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

宮崎大学教育学部生を対象とした世代間ギャップに関する意識調査を実施し、その結果を研修会での根拠資料とした。意識調査の報告書は、参考資料として別途刊行することで、他の研修でも活用できるようにした。

前年度に引き続き、スイッチャーとビデオキャプチャーを使用して、遠隔と対面のハイブリッド形式の演習とした。宮崎県教育研修センターのコンプライアンス研修担当の参事による講義を入れることで、大学の演習と行政研修との協働関係を構築した。

講義箇所の動画を撮影・編集して、研修コンテンツとして講義動画を制作し、今後の研修に活用できるようにした。

#### <写真・図など>



#### 研修会場の様子

宮崎大学教職大学院の講義室において、昨年同様、スイッチャーやビデオキャプチャーを用いたハイブリッド方式で研修会を実施した。会場は、グループディスカッションの班として7名で3つのアイランドで構成した。



#### 谷口推進員の講義

宮崎県の教育情報センターの推進員として、宮崎県のコンプライアンス研修を担っている立場から、宮崎県の事情を踏まえたハラスメント防止の講義をされた。



#### パネルディスカッションの様子

現職院生とストレート院生、教育情報センターの職員が、職場での「世代間ギャップを意識したハラスメント防止の取り組み」について、お互いの見解の違いを述べた。ハイブリッド方式として、パネラーの一人は遠隔参加。



#### グループディスカッションの様子

7名で3つの班を構成して協議を行った。勤務校で実施しうる「世代間ギャップ」を踏まえたハラスメント防止についての校内研修の企画検討を実施した。学部生は、遠隔で各班の協議の様子を参観した。



#### グループディスカッションの発表の様子

各班でまとめた校内研修企画を発表。特大ポストイットを用いて、大人数でも視認できるように工夫した。学部生は、遠隔で各班の発表をを視聴した。